20170312

当然の復活（ヨハネ20:26-29）

神様の恵みによって、クリスチャンになりました。しかし、時々信仰に対して、あるいは聖書に対して、いろいろな疑問が起こったり、聞きたいことがたくさんあったり、ときには本心はそうではないでしょうけれども、疑うような時もあります。しかし、その疑問、または疑いの裏を見ると、それが信じられないというよりは、今までの自分の常識、枠などによって見ているからなのです。そうすると、疑問になるような内容が聖書にはいくらでもあります。結局、その裏を返しますと、その人がクリスチャンなのにイエスがキリストだということをよくわかっていないのか、あるいはその瞬間、それを見逃しているかによってそれが疑問になり、ときには疑いのところまで走ることもあるということなのです。つまり、私たちが本当にイエスがキリストだという信仰告白の意味が分かり、その信仰にしっかり立てば、様々な葛藤や疑問が消えていき、霊の目が開かれるようになるということでしょう。

今日、イエス様が復活なさったという場面の1つでありますが、なかなか、イエス様がよみがえられた、復活なさったということを信じることができませんでした。実は、普通に考えると、イエス様の復活というのは、絶対に信じることのできない、信じられない出来事でではないでしょうか。それはありえないことなのです。私たちがもしイエス様の復活を信じる気持ちがあれば、それは奇跡であり、神様の恵みであり、皆さんが本当にいのちある存在だという証しのようなものなのです。普通に考えると、ありえないことではないでしょうか。今まで私たちが習ってきたのは科学、学問であり、今も世の中ではその科学が神だと信じ込んでおり、その科学こそが絶対だと皆思っていて、その科学に基づいて考えても、イエス様の復活というものはありえないことなのです。そうではないでしょうか。学生さんは、学校でいろいろな勉強など教えられているのではないでしょうか。その勉強した内容、学問に基づいて考えると、槍に刺されて、血と水を全部注ぎ出して死んでしまったイエス様が、3日目に復活したという事はありえない話なのです。だから当時、それを信じてお話をしていた弟子たちに向かって、気が狂っているのではないかと皆思っていたのです。そう思って当然ではないでしょうか。また、今までの私たちの経験で考えてみても、それはありえないことです。地球の歴史上、死んだ人がよみがえったというのは、ラザロ以外には誰もいません。でもイエス様が生き返らせました。それは復活とは内容が違うのですが、また死を経験せずに、天に召された人もいます。聖書には、1人2人そういうケースはありますが、一般の歴史の中では、人が一度死ぬともうそれで終わりです。生き返ると言う事はあり得ません。SF映画の中で、CGを通してそういうことを写せると言う事はあるのでしょうけれども、ありえません。だから、経験に基づいて考えてみても、それは絶対にありえない話です。そして私たちが普段生活しているのは、常識に従って生活をしていて、人間との付き合い、社会生活なども全て常識に従って暮らしているのではないでしょうか。その常識がなければ、生活そのものが成り立ちません。しかし、その大事な常識から考えても、イエス様の復活などはありえない話です。だからイエス様の復活は、絶対に信じられない出来事だし、信じないということが当然かもしれません。

その結果、実は誰もがイエス様の復活を信じることがなかったのです。そこを飛ばしてきたのですが、ヨハネの福音書19章38節から40節を見てみても、イエス様のことを本当に心から思っていたヨセフという人間と、また夜中にイエス様のところに訪れたニコデモという人が、イエス様の死体を預かるようにして、その死体が腐らないように、週刊通りにいろいろなものを用意して、お墓の中に入れるようになりました。その腐らないようにいろいろなものを用意していたということ自体が、また3日後によみがえるということを想像もしていないし、思ってもなかったと言うことです。イエス様のことを本当に心から慕って思っていたヨセフ、危険を覚悟してその死体をくださいと、私たちが処理するからとお願いするほどの重みのある人でも、イエス様の復活を信じる事はありませんでした。それから、20:11—15をみると、マリアが、イエス様がお墓の中から消えてなくなったことに対して悲しんで涙を流して、そして、後ろからイエス様が声をかけてきたときには、それがお墓の管理人だと思って「もしあなたが死体を運んだとしたならば教えてください。私がまた取り戻から」と泣きながら話していました。マリアも、イエス様がお墓の中からいなくなったのに、イエス様がよみがえられた、復活したとは全く信じていなかったし、信じようとも思ってもいないのです。そのマリアのお話を聞いて、ペテロともう一人の弟子がお墓のほうに走っていって、一人はちょっと怖くなったのでお墓の外から覗いていたのですが、ペテロは中に入って確認しました。そこに死体を巻いていた布が巻いたままの状態で中身だけが取り出されたような形で置いてありました。また、頭を巻いていたものがそのままあって、そこまで見たのにも関わらずペテロとそのもう一人の弟子も、イエス様もよみがえられると生きていらっしゃるときにおっしゃったこと、その意味が分かっていなかったし、信じていなかったと聖書は言っています。信じられません。イエス様の愛弟子であったペテロでさえ信じることができませんでした。

それから、イエス様が復活なさって弟子たちの前に現れて、弟子たちが、イエス様は復活なさったということを確認して、その場にいなかったトマスにお話しをしたわけです。しかし、「そんなのはありえない」「幻を見たのだろう」「あまりにもイエス様に会いたくて、それでそうなってしまったのではないのか」と弟子たちの証言を聞いたのにもかかわらず、トマスは全く信じようとしていませんでした。そのトマスがいるところに、イエス様がもう一回現れて、あなたあなたに平安がありますようにとお話しして、トマスとやりとりをする場面が今日お読みしたところです。「弟子たちの証言を聞いたのにもかかわらず、信じられないと言ったでしょう。触ってみなさい。私が槍に刺されて、釘に刺されて死んだイエスなのだよ。確認しなさい」。そのときトマスが、「私の主。私の神。あなたはキリストです」と告白しました。その時にイエス様が、あなたは見たから信じるのか。見ずに信じるものは幸いなのだ」とおっしゃいました。見ずに信じるものは誰でしょうか。今の私たちのことを指しておっしゃっているわけです。それほどなかなか信じられないのです。なかなかではありません。絶対に信じることができない、そういう出来事に違いありません。その結果、今現在の世の中では、そして、教会でさえイエス様が復活なさったという事は信じていません。神学校で聖書を教える教授の人々が、聖書に書いてあるイエス様の奇跡のことなどに対しての見解が様々なのです。そんなのはあるはずがない。光が反射して水の上を歩くかのように見えただけなのだ。あるいは、あまりにもイエス様に会いたい、会いたいという気持ちのあまりに、幻を見たのでしょう。あるいは、弟子たちを励ます意味で、イエス様は死んだのですが、生きている間に教えられた教訓等は素晴らしいものなので、それをしっかり受け継いでいくために、その象徴的ないろいろな話を作る、別に悪くないでしょう。イエス様の教えに従って生きるためのことであれば、別に作り話でも悪くはないのではないかとして、イエス様の奇跡について信じようとしません。なぜかというと、このイエス様の当時より今現在は、より学問が発展して、より理性的になっています。その理性に基づいて考えれば考えるほど、そういう事はありえない、信じられないものなのです。象徴的なことなのだ。だから奇跡というよりは、奇跡などを通して何かの教訓を残したいということでしょう。だから、教会でもほぼ倫理的な教訓、あるいはイエス様の犠牲による愛などによる教訓などしか語らないようになっているわけです。復活が本物でなければ、その復活を通してそこに込められた本当に言いたいことそれしか残らないのです。それは人間的な教訓の方にしかならないのです。だから、世界中の教会が、神学校の教授が、そのように教えるので、そのように学んで、現場に出て牧会をする牧師が、だいたいそのように教えていて、教会で聖書をもって教える内容が、ほとんどが世の中の教訓と変わらないものばかりなのです。なぜなら、その理性のレベルをはるかに超えたことは信じられないからです。信じていないからです。こういうことを考えてみると、また弟子たちの反応などから考えてみても、信じないことが当然であり、信じられないことが当然であるということが言えると思います。それは間違いありません。何でもかんでもよみがえられた、信じるということではありません。普通は、信じないことが当然なのです。普通は、気が狂っている人でなければ信じられないことが当然なのです。そんなことはあり得ませんと叫ぶのが当然なのかもしれません。

ただし、一つの条件を除いては。一つだけなのです。つまり、イエス様がキリストならば、話は別になります。他の条件は何を取り上げても信じないこと、信じられないことが普通であり当然なのです。それが理屈に合う話だし、そして、理性にも反しない話だし、科学的にも常識的にもそれに全部合う話です。一つだけなのです。もしも全部が信じられない条件であって、それで当然な理論であっても、一つだけもしもイエス様がキリストだったならば、イエス様がキリストならば、イエス様が必ず復活しなければなりません。イエス様がキリストならば必ず復活できるわけです。もしイエス様がキリストならば、復活以上のことも1十分できるお方なのです。だから、信じられないのが当然でしょうけれども、実は信じない理由が科学に合わないからではなくて、理性に合わないからではなくて、そのイエス様がキリストであるということがわかっていないし、キリストだという信仰がないと全部が疑いになるし、全部が合わない話になるしかありません。結局、人間そのものに戻るしかありません。信者にはなれないのです。私たちの人生の中にも様々な問題があり、いろいろな課題があり、いろいろなストーリーがあると思います。それに対して、いろいろな見解があるでしょう。全部が人間的なものなのです。誰かのせい、これが悪いから、社会がこうだから、私はこのように生まれたからしょうがないとか、いろいろなことを思うかもしれません。全部が事実であり、合っている話かもしれません。科学的に経験的に心理学的に考えたときに、全部が一理ある話かもしれません。しかし、それはイエスがキリストだと言うことがわかっていないからです。皆そのように思い込んで、そのように質問しているものではないでしょうか。一つしかありません。もしもイエスがキリストならば、今まで私たちがこれだあれだと思っていて、あるいはなんでだろうと思っていたそのすべてがもうひっくり返って終わりなのです。常識も崩れて、理性も崩れて、科学の根拠も全て崩れてあてになりません。イエスがキリストならば復活しなければいけないし、必ず復活できるし、そして、その復活こそがキリストとしての働きの完成なのです。だから、キリストならば当然、復活しなければなないし、それによってキリストの働きを全うされたことになるのです。イエス様が復活なさった後、使徒の働きを見ると、特に使徒たちがメッセージを語るときに、メッセージの内容が全部これなのです。神殿の前で施しを求めていた生まれつき足のきかない人が、ナザレ、イエスの御名によって歩きなさいと言われ治って立ち上がったのです。それで皆がどういうことなのかと思っていた時に、あなた方が驚くべき不思議なことではない。このように不可能なことが今イエスの名によって治ったというのは、あなた方が十字架で殺したイエスが復活したから、そのイエスが今も生きていらっしゃるから、イエスの名によってこうなっていることなのだ。結局、イエスの復活をお証しするメッセージだったのです。それが教会のメッセージです。パウロも言いました。Ⅰコリント15:3—4を見ると、聖書の予言通りに十字架で死なれ、聖書で言われた通りに3日目に復活したイエス様なのだと。ただ、キリストならば必ず復活を遂げないといけないわけです。それがキリストの働きの最後なのです。おかしいことではなくて、信じられないことではなくて、イエスがキリストならば、これが当然なのです。全く正反対でしょう。今まで皆さんがなんでだろう、あり得ませんと思っていたそれが、本当にイエスがキリストであれば、当然なのです。大きな失敗を経験したでしょうか。あるいは、もう思い出したくもない辛い経験をしたでしょうか。ありえないと言う気持ちがあれば、それは心にずっとトラウマや傷として残っている状態なのです。なぜそのように思うのでしょうか。、本当に辛いことがあったからでしょうか。本当にひどい親と会っているからでしょうか。本当に人に裏切られたからでしょうか。学校でいじめられたからでしょうか。そう思っている事は、イエスがキリストだという信仰から離れているからなのです。全部が事実でしょうけれども、イエス様が本当にキリストならば、それは全部ひっくり返って違う、それは起こるべくして起こったことなのです。当然なのです。神から離れて、生まれながら神の御怒りを受けるべき子らとして生まれた人間なので、そういうことに遭遇するというのはもう決まっている事だし、全部予想がついていることなのです。経験している皆さんは、その時その時はものすごく辛くて、ありえないと思うでしょうけれどもあり得ることだったのです。イエスがキリストならば。イエスがキリストであるということを裏返しますと、人間は神から離れてどうしようもできない運命の泥沼にとらわれて悪魔に従っていてものではないでしょうか。だから、当然なのです。誰かを恨んだり、何かのせいにしたりしないようにしましょう。早くそこから思い、考えが精神的にそこから脱却して、出エジプトをして自由にならないといけません。何が当然で、何が当然ではないのかということをわきまえて、全部ひっくり返して再整理しないといけません。ですから、一つの条件だけに絞って、他は複雑にいろいろ見る理由はありません。イエスがキリストならば復活は信じられないものではなくて、当然なことなのです。人類の救いのために復活は当然なことであり、死の力を打ち破って人々をそこから助けるためには、復活は当然なことであり、悪魔の頭を踏み砕いて勝利するためには、復活は当然なことであり、十字架の上で全てを完了し、私たちの全ての問題を完璧に解決するためには、復活は当然なことなのです。

それから、今までの時代に幕を閉じて、まったく新しい希望の時代の幕を開けるためには、イエス様の復活は当然なことでした。今まではイエス様が来られるためにエルサレムを中心にしてごちゃごちゃしていたわけです。しかし、時代は変わります。エルサレムをはじめ、ユダヤ、サマリアの全土、地の果てにまで、このイエスのいのちの福音が、グッドニュースが伝えられるようになる世界福音化の時代が幕を開けるようになりました。そのためには復活は当然なのです。復活がなければ、時代は変わりません。ずっとカーテンが降ろされているままの状態なのです。だから当然なのです。特に、イエス様を信じて、イエスがキリストと告白している人々、つまり、教会を通して福音宣教の働きがなされる時代なのです。教会を通して。イエス様を信じる人は誰でもイエスの証人になれるわけです。そういう時代です。特別なモーセ、ダビデのような一人一人ではなくて、イエス様を信じる誰でも、信じるものは救われます。「誰でも」の時代の幕が開けました。家様の復活がなければ、「誰でも」の時代は始まらないのです。皆さん誰でもなのです。そのような時代が始まるために、復活は当然なものなのです。

それから、教会は弱々しいものばかりです。だから、聖霊に満たしてその働きを全うするような時代が始まりました。聖霊充満の時代が始まるためには、復活は当然なことなのです。ですから、復活などは信じられないというのが当然だと思っていたのですが、イエスがキリストであれば復活は当然で、これからイエス様の復活を当たり前に信じること、それが当然なのです。その時にクリスチャンに勝利の門が開かれ、何より心の中にぐちゃぐちゃになっていた疑問や疑いや曇っている全てが晴れるようになるのです。それがスタートです。イエス様の復活が絶対にありえないと思っていた、その復活が当然なものであれば、その復活のイエス様を信じて救われた私たちクリスチャン、皆さん自分自身が、イエス様を信じるのであれば、疑い、葛藤、問題の前で、まず先に、イエス様をキリストですという告白を優先するようにしましょう。それを吹っ飛ばすためなのです。そうでなければ、どんなに考え込んで研究しても信じられない、ありえないということに捕らわれて、そこから抜け出せないのです。だから、研究せずに、考えずに、そんなに頭が良くないから、イエスがキリストならば、イエスがキリストだと先に告白して、そうならばイエス様を信じている自分は、そのイエス様によって変わったという変化、また、イエス様から与えられている祝福が当然のものだということを宣言しなければなりません。そうなのかな。そうであろうではなくて、何が当然でしょうか。イエス様を信じている限り私は全身きよいし、すべての罪が過去、現在、未来にまで完璧にきよめられてきよい存在だということが当然なのです。当然、完璧にきよいし、当然、過去、現在、未来、すべての問題が全部終わったのが当たり前なのです。当然なのです。それをメッセージを聞いて理解するのではなくて、当然のものとしてください。イエス様の復活が当然であれば、当然、聖霊が私の内側に永遠に離れることなく内住して、私は神殿と呼ばれる尊い存在であることが当然で、当たり前なのです。だから、神を「アバ、父よ」と呼ぶことができる神の子どもの身分であることが当然であるし、私たちが祈り、神の御心のために動くときには、天使が動員されることは不思議ではなくて当然なことであり、私たちがイエスの御名によって祈ると暗闇の力、悪魔、悪霊、サタンを踏みつけることができる権威を持っているというのは当たり前で当然なことなのです。そして、全てを乗り越えて勝利できる聖霊に満たされて聖霊充満を受けるということは特別なことではなくて当然なことなのです。なぜならイエス様の復活が当然であれば、イエス様がキリストならば、私がイエス様を信じているものであれば、ただ信仰だけなのです。そうであるならば当然なのです。これを当然の変化、祝福として受けてください。クリスチャンの祝福について、皆さん、みな暗記しているでしょう。問題はそれではありません。それをこれっぽっちも疑わずに、環境状況がどう変わろうか、変わらずに当然のものなのだと思ってください。当たり前ではないか。私がイエスの御名によって祈ると悪魔が震えるというのは当然ではないか。全てのことを働かせて益となると言うのは当然ではないのか。聖書のメッセージ、講談のメッセージを当然のメッセージとして受け止めていただきたいと思います。

そして、それが当然なので、当然の結果がついてくるのです。必ずこれからついてくる結果に対して、それも当然だと思っていただきたいと思います。これからイエス様の御名によって祈ると、聖霊の働きによって神のわざが現れることに対して期待を持って、当然だと思ってください。そして、先ほども話したように、イエスの御何よって祈ると、暗闇の力が皆さんの家庭、皆さん自分自身、また現場、職場に働いている暗闇の力が縛り上げられるということに対して、その結果が必ずついてきますので、それを当然の結果として考えてください。そして、その結果、皆さんに神様から、人が見てわかるような、人が真似できない神様からの祝福、証拠が与えられることが当然なのです。それを持って皆さんがイエスの証人として立たされるようになります。その結果が必ずついてきます。なぜなら、皆さんは神様の子どもだからです。聖霊の内住がされていらっしゃる尊い神の子どもだからです。だから、必ずこのような結果がついてくるのですが、当然なのです。特別なこととして思ったり、特別な人に限られることだと思わないようにしてください。皆さんが証人として立たされるときに、神様の方から征服の門を開きます。必ずです。それを聖書では成功といいます。その結果が必ずついてきます。成功者になろうとしないでください。バレリーナになろうとせず、キャビンアテンダントになろうと思わずに、その門が開かれるように。皆さんに与えられているその祝福によって、これから与えられる結果などを、今日から当然のものとして受け止めて、その結果、喜びを持って味わうようにしていただきたいと思います。そういう意味で、祈りの時間というのは無駄なことではなく、非常に大切なのです。皆さんが今のこの時代において、またそれぞれ置かれている現場において、主人公であるという自覚を持って勝利の道を歩んでいただきたい願います。

(祈り)

深い天の父なる神様。ありがとうございます。誰も、また何に基づいても信じられない、信じないことが当然であった復活が、実は当然なことであり、その復活が当然であれば、復活のイエス・キリストを信じている私たちが祝福のものであり、またその証人として暗闇の力に打ち勝って、いのちの主人公になるその結果も当然であることを教えられました。今までうすうすそうだろうと思っていたことに対して、日々、毎日すべての場面に置いて、当然という信仰をもって当たることができるように、ひとりひとりを励まして、心からの感謝と喜びにあふれるように導いてください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。